

第6学年「社会」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 資料等から問いをたて、調べてまとめる学習のサイクルが定着してきた。
 - 写真やグラフなどの資料をより多く活用してきた結果、社会的事象の背景を想像する力がついてきた。
- 課題**
- ▼ 社会的な事象について自分の考えを持つことはできるが、様々な視点から考察する力を伸ばす必要がある。
 - ▼ 社会的事象について自分の考えを持つことはできるが、自分たちの生活に結び付けることが難しい。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 学習課題や問いについて調べたことや考えたことを互いに伝え合うことを通して、自分の考えを深められるようにする。
- ◇ 学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 学習した場面がどんな場面で生かされるのか、また自分たちの生活とどのように関連するか想像し考える機会をつくり考えを交流する機会を設定する。

言語活動の工夫

- 資料から読み取った情報や課題に対する問いや考えについて、互いの考えを伝え合い、考えを深めることを目標にして話し合いを行う。

ICT活用の工夫

- タブレット端末を用いて複数の資料から得た情報を取捨選択し、自分なりにまとめられるようにする。

課題解決力育成の工夫

- 学校図書館や昭島市立図書館と連携し、学習に必要な資料を児童に数多く提示し、その中から必要な情報を自分自身で読み取り、活用させる。
- 探究ノート⑭⑮を活用し、本などの資料から適切に情報をまとめる力を身に付けさせる。

達成目標

- 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。